

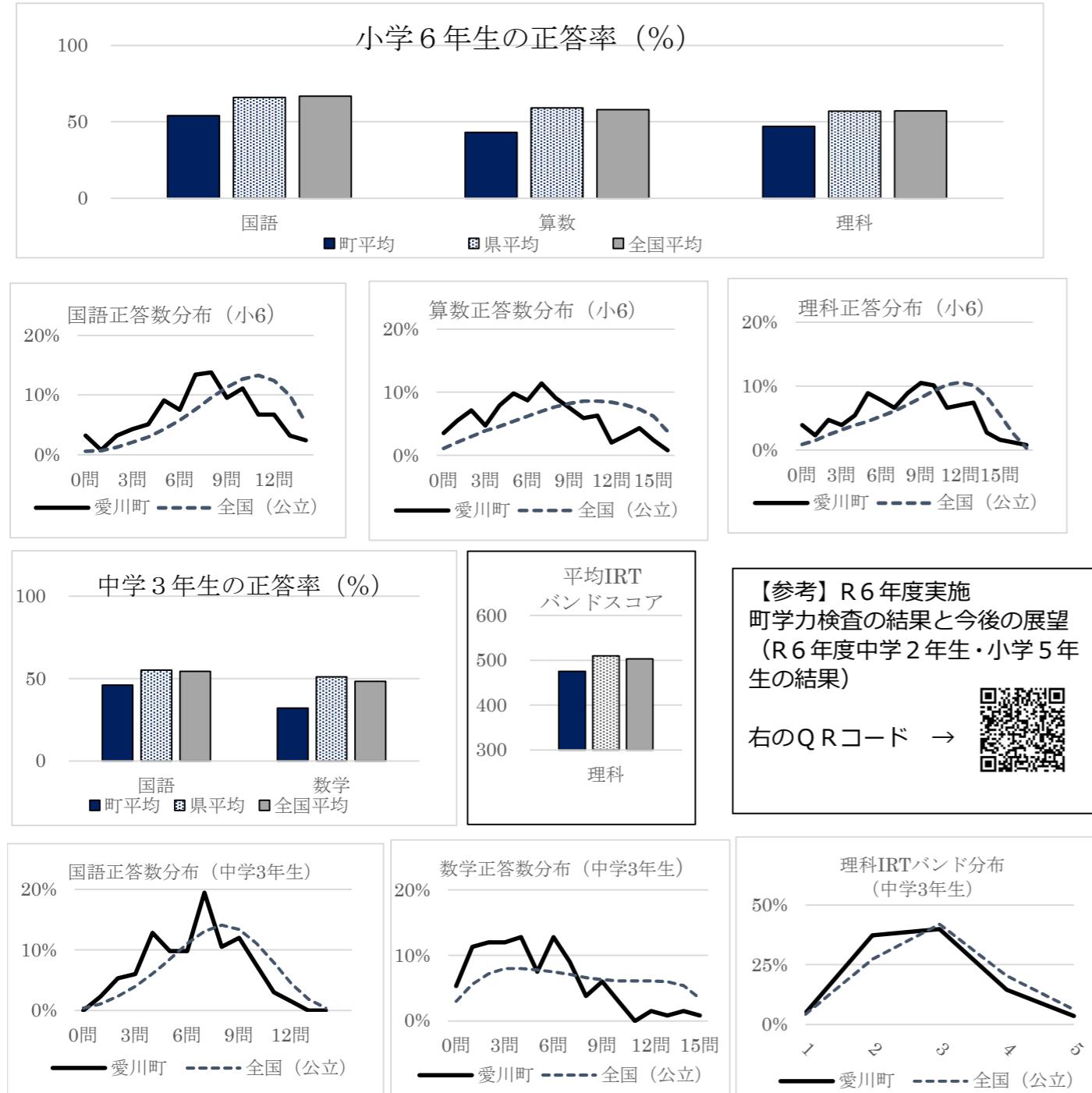
令和7年度 全国学力・学習状況調査（小学6年生、中学3年生）の結果と今後の展望

愛川町教育委員会

令和7年度に実施された全国学力・学習状況調査について、文部科学省 国立教育政策研究所から報告書と調査結果資料が公表されました。愛川町の「教科に関する調査」と「質問紙調査」の結果から見えてくる町の小学校6年生と中学校3年生の課題とその改善策について、学校の先生方とともに分析した結果と今後の展望を報告します。



1 町内児童・生徒の教科に関する調査結果



今年度の全国学力状況調査については全国的に正答率が低い傾向であった。本町については全国と比較して学力層が低めの位置に偏っていることが全体的な特徴である。また、今年度は3年に一度行われる理科の実施があり、中学校理科については回答パターンから500を基準としたIRTスコアで示している。

国語について中学校の平均正答率は、「話す・聞く」「読む」の領域で全国や県に約4ポイント差に迫る結果となった。小・中学校ともに「書くこと」の指導充実が課題である。算数・数学では、小・中学校ともに全体的な正答率が全国・県の平均を大きく下回った。ただし、中学校の「データ活用」と小学校の「数と計算」については比較的高い正答率の設問も見られた。理科では、小学校で記述問題の無回答率が高い傾向が見られたが、中学校では記述の無回答は少なく、一部の問題で全国平均より高い正答率を示している。

2 改善策

※各学校から挙げられた改善策の具体例

国語

- 自分の考えたことをペア、グループで伝えたり、自分の考えたことを文章に書き、推敲したりする活動を定期的に取り入れていく。
- 「〇字以内、何分以内で書く」など、与えられた条件で文章を書くことを設定する。

算数・数学

- 基礎的な計算力や基礎的な用語や定義の知識を身に付けることを意識して取り組む。ICTなどを活用した個別の支援を計画的に取り入れる。また、家庭学習などで家庭との連携を図る。
- 「なぜそうなるのか」「どうしてそう考えたのか」説明させたり、書かせたり時間を設ける。

理科

- 理科に関する用語などを普段の実生活と結びつけながら科学的な見方を育む。
- 予想、問い合わせ、仮説、考察など思考を深める時間を設けた授業展開を図る。

3 町内児童・生徒の質問紙調査に関する結果

◎以下の質問に対して回答した児童・生徒の教科ごとの正答率（クロス集計）

・町平均正答率より高いところに網掛け

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」	平均正答率(%)				※IRTスコア			
	小学6年生		中学3年生		児童数(人)	国語	算数	理科
	児童数(人)	国語	算数	理科				
1 当てはまる	104	59.9	47.5	51.8	91	51.1	41.9	495
2 どちらかといえば、当てはまる	100	54.5	44.8	48.4	133	45.9	36.4	476
3 どちらかといえば、当てはまらない	40	42.9	30.3	35.4	23	46.9	23.2	433
4 当てはまらない	10	40.7	30.6	24.7	8	34.7	21.9	391
5 話し合う活動を行っていない	0	0	0	0	3	35.7	15.6	370

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」	平均正答率(%)				※IRTスコア			
	小学6年生		中学3年生		児童数(人)	国語	算数	理科
	児童数(人)	国語	算数	理科				
1 3時間以上	22	49.4	47.4	51.3	19	53.4	37.9	486
2 2時間以上、3時間より少ない	23	58.4	51.1	49.6	49	50.6	44.8	499
3 1時間以上、2時間より少ない	58	58.5	45.6	47.3	52	46.2	38.3	479
4 30分以上、1時間より少ない	66	55.7	40.7	47.1	44	49.7	36.5	467
5 30分より少ない	56	52.5	42.3	47.9	46	48.1	30.9	462
6 全くしない	29	47.4	35.3	37.3	47	46.1	30.8	458

上記の調査結果より、小中学校とも、学習時間が長いほど平均正答率が高い傾向にある。また、課題を自分なりに広げたり深めたりといった主体的な学習活動を行っている児童生徒ほど、平均正答率やIRTスコアが高くなる傾向がみられる。特に中学生では自ら課題に取り組む姿勢が学力に大きく影響している。

4 今後の展望

「先生はあなたの良いところを認めてくれる」「学校に行くのは楽しい」「友達関係に満足している」といった肯定的な回答が高い傾向がある。この強みを活かし、児童・生徒の考え方や思いを尊重し、協働的な学びを通して「主体的・対話的で深い学び」を充実させる。さらに個別最適な学びの工夫、個別の支援、ICTの活用、家庭との連携などを進めることで、基礎学力の確実な育成を図っていく。